

中山観光・季節のおはなし・旅便り



早いものでもう11月
今年も残すところ2ヶ月となりました。

暦のうえでは秋の終わりが間近となります

色づいた葉が風に舞い、
鮮やかな落ち葉の絨毯を楽しみながらも
目にも美しい秋が終わるのは寂しくもあいりますね。

毎日寒さもつのりますので、くれぐれもご自愛ください。



11月の風物詩 立冬

2023年は11月8日

立冬の頃は
冬の花 山茶花の開花時

暦上は冬の始まりとはいえるが、現代日本の立冬の頃といえば、まだ紅葉も見頃で冬の気配は薄いですね。でもこの時期から、北寄りの冷たい風(木枯らし)が吹き始め、日が暮れるのも早くなっています。木枯らしが吹いたかと思えば、ぽかぽか陽気の小春日和が数日続いたりしながら、徐々に季節は秋から冬へと移ろうのです。



暦で冬の入りを告げる今年の「立冬」は11月8日です

山茶花はそのころに花をつけ、これからの長い冬枯れの季節を彩ってくれます。

花言葉

「ひたむきな愛」「ひたむきさ」「理想の恋」「困難に打ち勝つ」などがあります。

これはほかの草花が枯れてしまう寒い冬の時期に明るい花をつけることからついた花言葉とされています

この季節、ほかの花々が既に枯れてしまい、冬枯れの風景が広がる中で、山茶花が赤やピンクや白の花をきれいに開いて、ひと際目を引いて咲きほこります。日本では、人家の生垣や道端の垣根に利用されることが多く、寺院や茶室の庭木としても好まれており、日常的に馴染み深い花です。

山茶花といえば思い出すのは

さざんか さざんか 咲いた道
たき火だ たき火だ 落葉たき
あたろうか あたろうよ
しもやけ おててが もうかゆい



毎年11月の酉の日に行われる『酉の市』

酉の市は江戸時代から続く年中行事で、特に商売をしている方には欠かせないお祭りの一つと言われています。今年の酉の市は一の酉・11月11日(土曜日)二の酉は

11月23日(木曜日)の2回あります。(酉の市は、毎年11月の酉の日に行われる)

酉の日の酉とは十二支のことで、昔はこの十二支を使って月や日付、方角、時刻などを表していました。

酉の日とはこの十二支によって巡ってくる日ということになります。



酉の市と言えば、名物『縁起熊手』がよく知られていますが、これは、酉の市で元々農具として売られていたものが、その形状が「金や福をかき集める」と捉えられるようになりました、次第に縁起物として扱われるようになりましたからだと言われています。酉の市で熊手を買う時は、「値切るほど縁起が良い」とされます

菊の花

「桜も菊も共に日本の「国花」と呼ばれています

「国花」はその国民に最も愛好されその国の象徴とされる花とされ

「国家を象徴する」と「国民に愛好される」

この2つが重要なポイントのようです。

パスポートの紋章や皇室の象徴が「菊」なので、

国家を象徴するという意味では「菊」の印象が強い方も多いかもしれませんね

でもパスポートと皇室では「菊」の御紋は違うんですよ…

皇室が使用する菊の紋は「菊の御紋」と呼ばれています。

パスポートの菊と菊の御紋はそっくりなようで、じつは違うデザイン。

パスポートの菊は「十六弁一重表菊」、菊の御紋は「十六弁八重表菊」。

菊の御紋は花弁と花弁の間に、さらに花弁が見えます

皇室の御紋は「花びらが 16 枚で、八重菊であること」と決まっているそうです

日本の国花は法律では定められていないそうです。桜は春に咲く美しい花で

日本人にとって自然の美しさやはかなさを象徴するもの。

そして、菊は秋に咲く華やかな花で、長寿や繁栄を象徴するものです。

桜と菊を日本では国の象徴とし、様々なデザインに扱われています。

桜は100円玉や切手のデザインに、菊の花は 50 円玉硬貨の表面に使

他に聴くの花は皇室の紋章、国会議員バッジや警視庁の記章にも使用

第 63 回 弥彦菊祭り 11 月 1 日～24 日

彌彦神社の境内で開催される弥彦菊まつりは出品者数・出品品目において

全国随一の規模を誇る菊花大展覧会で内外の菊作り愛好者が 1 年間丹精込めて

育てた名作 3 千鉢が出品、「華やかさ」、「繊細さ」、「ダイナミックさ」などが競われ、

錦秋の弥彦を彩ります。中でも三万本の挿芽小菊で毎年テーマを変え作られる

大風景花壇は圧巻

爽やかに澄み渡る青空が、心を軽やかにさせる季節。

朝、青空を見るうれしくて、ついつい写真に撮ってしまいますが、

絵や写真ではおさめられそうにないその空色は、秋が届けてくれた

贈り物のように感じます(o^-^o)ニ

11 月の霜降る月に入り、秋の花を代表する菊が花盛りを迎えます。

この頃に晴れ上がる青空を「菊晴れ」と呼び、香り高く気品に満ちた菊の花は

春の桜の花と並んで、日本人に最も親しまれている花ですね

秋になると、各地で菊花展などが盛んに行われ、

風物詩にもなっています。

仏花のイメージが強いキクですが、ヨーロッパなどで

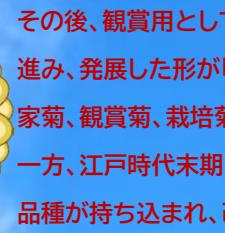
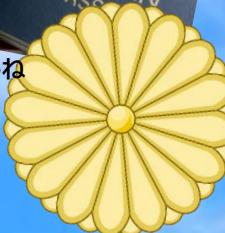
品種改良が進んだ洋菊は、おしゃれな花姿で、

アレンジメントやブーケにおすすめです。

さまざまな品種があり、観賞用の鉢植え、墓前に供える切り花、

刺身のツマなど、あらゆるシーンで目ににする機会が多く、

日本人が慣れ親しんでる花の 1 つです。



日本の花として定着しているキクですが、原産は中国です。

キクは、奈良～平安時代に中国から伝來したといわれています。

その後、観賞用として品種改良が

進み、発展した形が「和菊」と呼ばれる種類です。

家菊、観賞菊、栽培菊、などの呼び方もあります。

一方、江戸時代末期に、日本からヨーロッパにさまざまな

品種が持ち込まれ、改良が進んで誕生したのが「洋菊」です。

キクの花言葉は、高貴、高潔、高尚、清浄、思慮深い、わずかな愛、などです。

中でも、高貴、高潔といったワードは、品のある美しい花姿に良く似合っています。

仏花として利用されることも多いことから、縁起が悪いと勘違いされるケースも

ありますが、実はまったくの逆で、格式が高く邪気を払うことから縁起の良い花



日本に自生するのは野菊



第 116 回 笠間の菊まつり

10 月 21 日(土)から 11 月 26 日(日)

笠間では、つつじと並んで有名なのが、秋に咲く菊の花。

笠間稻荷神社をメイン会場に開かれる「笠間の菊まつり」では、会場は約 2 万株の菊で彩られている。

立ち菊、懸崖菊、千輪咲き、古典菊、盆栽菊など、多種多様で テーマは「徳川家康・家康の幼少期から晩年までの生涯や

色鮮やかな花菊が咲き誇ります。

日本で最も古い菊の祭典で始まりは明治 41 年。



第 67 回 日本最大級の菊の祭典「二本松の菊人形」

10 月 10 日(火)～11 月 19 日(日)

福島県二本松市の霞ヶ城公園で始まった「二本松の菊人形」。

テーマは「徳川家康・家康の幼少期から晩年までの生涯や

「大奥」を菊人形で再現





茨城県が「魅力最下位」って本当？

10月14日に発表された魅力度ランキングで茨城県は2年ぶりに47位に転落…

悲しすぎます😢

2009年の調査開始以来、15年間で12回目の最下位となり

県民からも自虐的な声が上がっているようです。

皆様は茨城県のイメージをどんなふうに感じていますか？

茨城県が映画やドラマのロケ地として有名なをご存知ですか？

大洗町が「ガールズ&パンツァー」というアニメの舞台となったことで、一躍アニメの聖地となったことはご存知の方も多いと思いますが、実はそれだけではなく、全国フィルムコミッションが集計した過去5年の撮影数ランキングでは、茨城県は264作品で堂々の1位なんです！

2位は沖縄県の54件なので圧倒的に茨城県のロケ誘致数が多いことがわかります

全国魅力度ランキングで最下位が定位置のようになってしまっている茨城県ですが、実は映画やドラマのロケ地としてはとても魅力的な場所なんですよ～(o^-^o)ニ

最近大きな話題となったドラマ『VIVANT』(TBSテレビ)では、三の丸庁舎(水戸市)、

筑波海軍航空隊記念館(笠間市)、県営ライフル射撃場(桜川市)などで撮影が行われた。

CM撮影の場としても人気で、JR東日本の「大人の休日俱楽部(出演:吉永小百合さん)」

ロケ現場は、北大路魯山人の旧宅を移築した「春風萬里荘」や笠間稻荷神社



茨城県がロケ地に選ばれている一番の理由として考えられるのが、「いばらきフィルムコミッション」の存在

いばらきフィルムコミッションは、茨城県が運営！撮影に関するさまざまなサポートを行っています。

撮影者がロケ地選びに困ったときに最適な場所を案内してくれるだけではなく、

撮影許可に関する協力やエキストラ手配、宿泊施設の案内など、本来であればADさんか

やらなければならぬことまでサポートしてくれます。

茨城県では、県全体が一丸となってロケ隊を誘致しているんです



吉永小百合さんが旅するテレビCMで注目のJR東日本大人の休日俱楽部
令和5年秋に放送のCMは、茨城県「笠間の小さな秋篇」。

撮影シーンは、茨城県笠間市にある笠間稻荷神社や笠間日動美術館分館の春風萬里荘

「春風萬里」とは、北大路魯山人が好んで用いた李白の漢詩にある言葉です。

冒頭は栗…、栗料理の店などが出てくるのは、単に秋を強調したいからではなく、茨城県は栽培面積・出荷量とも全国第1位を誇る栗の生産地、なかでも笠間はその主産地として知られる…そのあと向かったのは、笠間稻荷神社。日本三大稻荷にも数えられ、本殿は、国の重要文化財に指定

吉永小百合さんが菊を愛するシーンもあり、10月下旬～11月下旬に開催される『笠間の菊まつり』の歴史は古く、有名・絵馬殿和傘アートなど境内を和傘で彩る風流な『アンブレラスカイ』も行なわれます。

最後に登場するのが春風萬里荘。

笠間駅の南に広がる丘に洋画家、日本画家、彫刻家、陶芸家、染織家など

40戸ほどのアトリエが点在する、「芸術の村」にある笠間日動美術館分館。

料理家であり、優れた陶芸家として知られる北大路魯山人が住居としていた北鎌倉の茅葺き民家を、北大路魯山人没後の昭和40年に「芸術の村」に移築したもの



